

佐原の町並み

かわらぬ版

第 2 2 号

平成11年11月

発行 小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会

誇りの持てるまちづくりを目指して
フォーラム開催

全国から三五〇名の参加を迎えて東薫酒造・正上穀倉を会場として
四分科会でパネルディスカッションが行われました。

去る九月十八日「地方分権とまちづくり」をメインテーマとして「まちづくりフォーラム in 佐原」が開催されました。全体会場となった東薫酒造酒蔵は沢山の野の花が活込まれ、秋本番の趣でした。全国から来佐した約三五〇人の熱心な参加者を前に「誇りの持てるまちづくりをめざして」と題した基調講演が、東京大学大学院教授森田朗氏によって行われました。



正上穀倉で発表する加瀬、小林の両氏

加瀬、小林の両氏が正上穀倉で発表している様子。背景には「重伝建地区との共生」という横断幕が見える。



東薫酒蔵の全体会：熱心に聞き入る参加者

この後、「ローカルルールと政策法務」「情報公開とまちづくり」「重伝建地区との共生」「酒造りと価値観の創造」の四分科会に分

と保存の経緯「売らない、貸さない、壊さない」を基本理念とした地区住民への啓蒙等多くの示唆に富む発言がありました。また、現在では地区内での経済的格差が顕著になってきた事、世代交代による考え方の相違等、保存することの苦労や、今後の課題が提示され、各市としても大いに参考になるものでした。



第4分科会のパネラーと参加者

去る九月二十五、二十六日に、幕張メッセにおいて、「ちば文化祭'99」と「ちば学びフェスティバル」が同時開催された。本市の町並み案内ボランティアの会員の方々が参加され、会の活動を紹介した。吉田昌司会長から、その感想をお聞きしました。フェスティバルは、過去最高の人出となり、八万人を超す見学者が会場をうめつくした。どのコーナーも予想以上の人が集まり、生涯学習ボランティア活動に対する意欲的な取組や関心の高さを改めて感じました。特に私達の会は、県内でも初めての町並み案内ボランティア団体ということで大変注目され、資料はまたたく間に無くなってしまい、対応に苦慮しました。体験学習として、忠敬の足型を

ちば文化祭'99 幕張メッセ 学びフェスティバルで町並み紹介

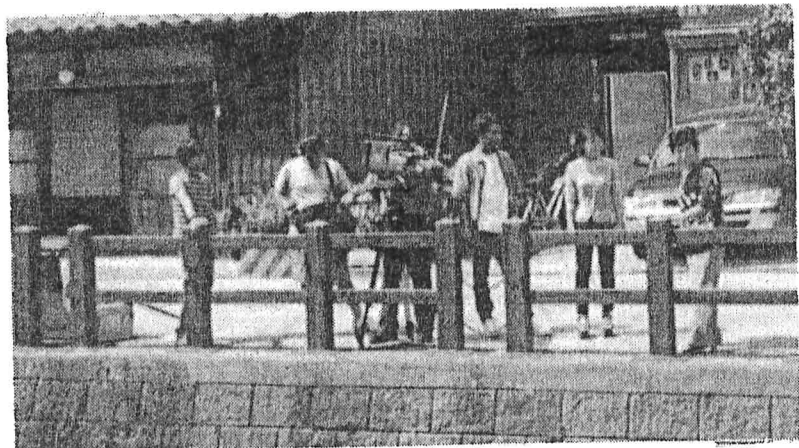
フロアーに貼り、その上を歩くコーナーは、伊能忠敬を理解することに結びつく、最高のアイデアでした。早速、翌日には電話予約があり、その成果が予想以上のものであったことに驚いています。

快晴に恵まれた 佐原の大祭秋祭り

今年の諏訪神社秋祭りは、十月八、十日、三日間快晴に恵まれました。初日、楽日は各町内が思い思いのコースで町中を曳き廻し、中日の九日（午後二時～四時）にはコミュニティ広場に勢揃し、曲曳きが行なわれました。町は祭に参加する人、見物客であふれ、三日間で四十五万人の人出で賑いました。

「考える会」の活動を千葉テレビが取材・放映

千葉県内には、現在町づくりに関するボランティア団体が六つあります。この中で、活力あふれる町づくりを目指して頑張っている「小野川と佐原の町並みを考える会」が、『魅力ある町、そして観光地づくり』という千葉テレビの番組で取り上げられた。榎木南美アナウンサーが佐原の町並みを訪れて取材する形式で構成され「考える会」の活動拠点である三菱館における会員の活動様子や実際に町並みを案内している様子等が収録され、九月二十五日に放映されました。



榎木アナへの小野川の説明にカメラが廻る

町並み話

二歳位の男の子をおんぶしたおばあちゃんが、中央案内所へ入って来ました。入って来るなりテレホンカードを見つければ「神武天皇だ、おかめさんだ！」など飾り人形の名前をスラスラ言えたのはびっくり。そしておばあちゃんの背中で「ジャンジャンモンモン、ジャンモンモン」と拍子をとりにながら勢いよく飛び跳ねて大ハシヤギ。さすが佐原っ子。お雛子の音が小さいうちから耳にしつかり染みついていくのですね。きっと祭り好きの青年になること間違いなし。